

温故知新

2023年2月1日

1 / 2

突然ですが私は昭和50年（1975年）生まれで、近々48歳になる。。みたいです。この歳になると、今自分が何歳かあまり覚えていません（私だけでしょうか？…）私は自分のことを「昭和世代」なんだろうと思っていたら、調べてみると1975年生まれは「氷河期世代・ロストジェネレーション世代」と言うらしいです（なんかかっこいいです）。

そんな私ですが、大学卒業後の23歳から今まで、紆余曲折を経ながら25年ほど「土木コンサルタント」業界でお世話になっています。25年と言っても年月相応のスキルなどなく、あくまで「紆余曲折」を経た経験年数ですが、25年と言えばいわゆる「四半世紀」ですので、土木コンサルタントにおける多少の歴史を経験してきました。

他方、「DX」デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）、という言葉を目にしたことはありますでしょうか？ほとんどの方は聞いたことがあると思いますが、「デジタル技術による変革」のことです。経済産業省が2018年にDXのガイドラインを示してからかれこれ4年が経過し、耳なじみになった言葉かと思えます。我が土木（建設）コンサルタント業界もDXを推し進めようと頑張っているのですが、なかなか政府が思い描くような目覚ましい成果はまだ上がっていないのが現実ではないでしょうか？



「トランスフォーメーション」と聞いてこれを思い浮かべるあなたはロストジェネレーション世代

しかし、これまでの25年を振り返ってみると、とても大きな「DX：デジタル革命」は数多くありました。そこで、今回は、今まで経験したロストジェネレーション世代の「DX」をご紹介します（ロストジェネレーション…気に入っています。）

まず、土木コンサルタント業界のみならず、ほぼ全世界で革新的な変革をもたらしたデジタル革命と言えば「携帯電話」です！

ここで言うのはあくまで「個人携帯電話の普及」のことですが、「ゆとり世代」より若い方たちには「そんなこと？」と思われるかもしれません。ですが、携帯が普及する前と後では、ビジネスにおいて天と地がひっくり返るほどの衝撃だったのです。何せ場所を選ばず電話ができるのです！



これの進化系が2ちゃんねる？

昔は駅で待ち合わせをしていて待ちぼうけを食らったときは、駅の伝言板（黒板）に「〇〇さんへ。先に行ってます。」とか書いて行き先を知らせていたのが、オンタイムで会話ができるしまうので、すぐさま相手のことが分かります！（こういう時の遅れている電話相手が、いかにも今起きた体（てい）のときにはすぐさま殴り込みに行きたくなります）もうこれ以上の革命はないかと思うぐらいのインパクトでした。

その昔、駅の掲示板に「佐藤さんへ。先に行ってます。」と書いてあった伝言を「佐藤！首洗って待っとけ！」と書き換えことは、この場をお借りして謝罪いたします。どこかの佐藤さん、ごめんなさい。

温故知新

2023年2月1日

2 / 2

次に、土木コンサルタントにおけるデジタル革命と聞いて真っ先に思い浮かべるのが「デジタルカメラ」です。これまた「さとり世代」以降の方たちにはあって当たり前でしょうが、デジカメの前はフィルムカメラだったので、とんでもない進歩でした！

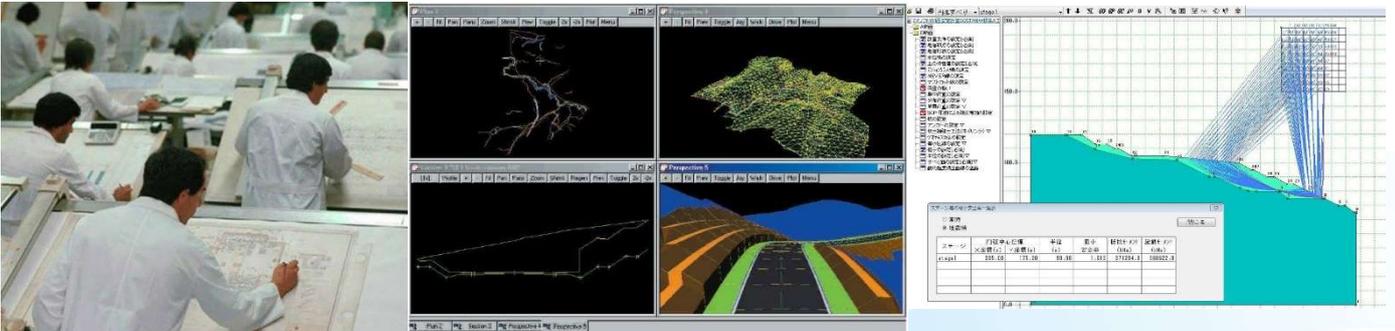
フィルムカメラと言えば、現像したらボケてたり、すぐに撮れる枚数が無くなったり、フィルムを交換するときに巻き取らずにせっかく撮った写真が真っ白になったり、逆に巻き取りすぎてフィルムが取れなくなったりと、数えきれない失敗をしましたが、デジカメは、その場で撮った画像を確認でき、枚数もたくさん撮れて、何よりフィルムがない！現像いらす！画質がいい！とにもかくにも今までの手間と負担が一気に解消されました。

今の若者の間では「エモい」という理由でフィルムカメラが流行っている（もう廃れました？）ようですが、そもそも「エモい」が「emotional（哀愁漂う）」から来たものならば、フィルムカメラの哀愁など知らない世代がなぜエモいのか理解ができず、「エモ」と言えば「エモやん：元阪神の江本孟紀氏」しか思い浮かばないロスジェネレーション世代の私には、フィルムカメラと聞くと、あの手間暇がかかった日々が思い返され、陰鬱な気分になります。



実は歌を7曲も発表しています

その他にも、製図板に三角定規とコンパス、分度器などで書いていた図面がCAD（製図ソフト）で正確無比に書けるようになったり、それまで従業員総出で夜遅くまで何日もかかって手計算で行っていたトライアル計算（最適な答えを求めするために計算を繰り返すこと）が電子演算で“秒”で計算できたりと、さまざまな「デジタル革命」を経験してきました。



今思うと、あの頃のエモやん世代は、「もっと効率化したい！」「より便利にしたい！」という欲求に溢れ、昨今の「DX」推進にはない「熱」みたいなものがみなぎっていたように思い返され、郷愁を誘います。そう、これが「エモい」ってやつでしょうか？

これからのエモい世代の方々が挑戦する「建設DX」には、血気盛んなハッスル時代を振り返り、「故（ふる）きを温（たず）ねて新（あた）しきを知（し）る」精神を以て望めば、革命は大きく前進するのではないのでしょうか？